

*** 園～高校まで、動物飼育活動活用（動物介在教育）の教育計画 ***

（中川美穂子 白梅学園大学大学院論叢 創刊号）

- ・子どもの育つ環境に人と感情を交流できる種類の動物において、意図して関わらせ愛情を感じさせることで、「子どもの成長に必要な」様々な刺激とする
- ・担当の教師に任せるのではなく、経営上の問題として全体で担当する
- ・獣医師等の知識と技術による支援を得て、衛生の観念など保護者の理解と支援を得る
- ・世話の簡単で適度な動物数を、掃除の簡単な飼育舎で飼育活動をする（大変な飼育はしない）

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生物への興味と探求心を培う・自尊感情を高める。 ・言葉を持たない相手の気持ちを洞察する気持ちを養う（コミュニケーション能力） ・動物との交流で、友達や自分自身の体と心を理解することにつながる（共存） ・暑さ寒さへの配慮など、命をまもる細かい配慮を培う ・将来の子育てにつながる ・（～のために）との、労働の動機と技術を養う（体の使い方、力の入れ具合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の生命尊重の指導の重要な基礎体験 ・道徳の思いやりの教育の重要な基礎体験 ・生物教育の基礎体験（ほ乳類 鳥類 は虫類 魚類 両生類等） ・衛生教育の基礎 清潔・不潔の理解
----	---	---

基本的 関わらせ 方	命を守るために必要なこと 暑さ寒さ予防 住居の清潔 新鮮な栄養と水 動物の偏食予防 かわいがる	指導法	最初に、基本的な動物との接触法（年齢により）を獣医師支援の飼育導入授業で伝える 日常の世話（掃除、餌と水を与えて、優しい接触で、動物が「かわいがられてる」と感じるように扱う）を通じて、苦勞と喜びを実感させる それができる自分の価値に気付かせる 暑さ寒さへの配慮を伝え 動物が、こちらのすることをどのように感じているかを洞察させる 動物が喜んでるか？困っていないかを、良く観察させて洞察する習慣を培う 動物にも個性があることを観察と接触により、理解できるようにする
------------------	--	-----	---

年齢別	0歳～3歳児	4歳～5歳児	1年～2年	3年～4年	5年～6年	中学校	高等学校
	環境 人間関係	環境 人間関係	生活科継続飼育	総合・委員会活動	総合・委員会・理科	(学級活動、理科)	

ねらい	好奇心・感性を開く	好奇心 感性・愛情 死の理解	愛情・かばう 観察力・共感 責任・協力・探求心	労働・責任・共感・協力・ 観察力・探求心・死の悲しみ(生命尊重)	動物の知識や活動への 自信の発展	大事に思う対象を与える 優しさを引き出す 知識の発展・探求心・生徒の精神の安定
-----	-----------	----------------------	-------------------------------	-------------------------------------	---------------------	---

関わり指導	大人と一緒に、大人が持つ動物を見る などで	大人がいるところで、膝に抱く	世話の簡単な動物を飼う	飼育舎の管理の意味と方法を教える 飼育導入授業を行う	担当せず、下級生への指導 知識を深め下級生に伝える	人と動物の関係を考えさせる クラス内のペットとして簡単な動物を飼う
-------	-----------------------	----------------	-------------	-------------------------------	---------------------------	--------------------------------------

動物種 基本飼育	世話の簡単な チャボ	保育園・チャボ 幼稚園・モルモット、ウサギ、チャボ	教室の内外で モルモット・ハムスター・文鳥	飼育舎の管理に適切な年齢 チャボ・ウサギ	飼うなら：クラス内 ペットのモルモットや ハムスター、金魚等、 理科マイメダカ	教室内の文鳥 金魚 マイメダカ*1	水槽の生物 クラスが荒れている時は文鳥
-------------	---------------	------------------------------	--------------------------	-------------------------	--	-------------------------	------------------------

発展活動	散歩での動物発見	+動物園訪問	+動物園訪問	水族館・動物園 動物調べ	動物調べ・畜産体験・ 下級生への世話指導	畜産体験・ 乳製品作り	畜産体験・鶏肉や ハム作り
------	----------	--------	--------	--------------	-------------------------	----------------	------------------

休日	保護者が交替で参加（親子当番） 交替でホームステイ			親子当番。*2	水槽以外はホームステイ		
----	---------------------------	--	--	---------	-------------	--	--

支援内容	子どもが持ち込む動物を保育者も興味を持って飼う 動物への共感を培うような言葉かけ 衛生などの注意について獣医師と交流する 管理法やふれあい法も獣医師の助言と支援を求める	清掃・餌やりを最初は毎日指導する 命には休みがないとを伝える 獣医師の支援を得る	専門家の支援を得て、児童の質問に答える機会を用意する	皆でかわいがる環境に発展させる 失敗をおそれず、持続により、生徒の精神の安定と理科の授業への発展を期待する 食肉の成り立ちを自覚させる
------	---	--	----------------------------	---

*1 マイメダカ：児童が一人ひとり小さなジップ付きポリ袋で、メダカの受精卵1つずつを養い、発生を観察し育てる授業 研究心と命の実感を期待する
*2 親子当番：休日の世話の主体は子どもだが、危険なため親とともに登校して世話をする。親子の会話、親の偉大さや子どもの動物好きなど相互理解できる。効果大